

ふくやま美術館及びふくやま書道美術館大規模改修  
基本構想（素案）に係るパブリックコメントの  
実施結果について

福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課

## 1 意見募集の概要と結果

### (1) 概要

#### ア 公表資料

ふくやま美術館及びふくやま書道美術館大規模改修基本構想（素案）

#### イ 公表場所

文化振興課、市政情報室、松永市民サービス課、北部市民サービス課、東部市民サービス課、神辺支所神辺市民サービス課、鞆支所、沼隈支所、内海支所、芦田支所、加茂支所、新市支所、走島分所、内浦分所、山野分所、広瀬交流館（広瀬分所）、水呑分室、熊野分室、ふくやま美術館、福山市ホームページ

#### ウ 意見の募集期間

2026年（令和8年）2月20日（金）～2026年（令和8年）3月23日（月）

### (2) 結果

#### ア 提出書

5通（電子メール5）

#### イ 意見数

10件

①計画に反映するもの 1件

②市の考え方を説明するもの 1件

③今後の施策の参考とするもの 8件

※1通に複数の意見が記載されているものについては、意見の内容ごとに整理しています。

## 2 意見の内容及び市の考え方

### (1) 計画に反映するもの(1件)

No.	該当箇所	意見の内容	市の考え方
1	P17 (6) 賑わい創出事業	国内外からの誘客を図るためには、福山駅周辺の文化施設や事業者だけではなく、他の美術館などと連携することも必要ではないでしょうか。	国内外からの誘客には、他の美術館などと連携することは非常に重要なことだと考えております。 これまでも他の美術館と連携した展覧会の開催などを行っており、そういった取組を今後も拡充していくことが必要だと考えています。 17ページに、他の美術館等と連携に関する記述を追記します。

### (2) 市の考え方を説明するもの(1件)

No.	該当箇所	意見の内容	市の考え方
1	P10 (1) 基本方針のアップデート	今回の基本方針のアップデートについては賛同するが、今後も定期的にアップデートや見直しの機会を設けるべきである。	基本方針については、毎年の事業や取組の評価結果、社会状況の変化などを踏まえ、定期的に見直しが必要だと考えております。 今後は、概ね5年を目途に見直しの機会を設けたいと考えております。

(3) 今後の施策の参考とするもの(8件)

No.	該当箇所	意見の内容
1	全体	<p>美術館のコレクションには、多くの寄付者の方々の思いが詰まっています。</p> <p>そういった方々を顕彰することも重要で、下手をすれば学芸員が自分のものかのように作品を他者に対して発信するようなことさえ見られます。</p> <p>具体的にどうすれば良いかと言うと、例えば、2階茶室に松本卓臣さんの写真と経歴、代表的なコレクションと評価を表記したパネルの設置。</p> <p>また1階に、小松安弘さんの写真と経歴、代表的なコレクションと評価。</p> <p>そして書道美術館そばの壁面などに、栗原蘆水、桑田笹舟を同様に紹介。</p> <p>また、書のまち福山は、知られているようで知られていないので、なぜ、そう呼ばれているのかの紹介。</p> <p>国宝刀剣の数が多いことの紹介。</p> <p>福山の魅力をしっかり紹介できるようにしなくてははいけません。</p> <p>美術館改修の委員は美術館の専門家であっても、福山の専門家ではないのですから、地域の思いある人たちの意見に耳を傾けるべきです。</p>
2	P10 (1) 基本方針のアップデート	<p>【文化・芸術の観点】展示との強力な相乗効果と「映像芸術」の発信。「世界に向かって開かれた窓としての美術館」を実現するため、展示だけでなく「映像」を通じたアプローチ。例えば、企画展で取り上げている画家のドキュメンタリー映画の上映や、優れた国内外のインディペンデント映画(ミニシアター系作品)、メディアアート作品の上映など、展示と映像を連動させることで、鑑賞者の作品理解と世界観をより深く、立体的に拡大するのはいかがでしょうか。</p>
3	P10 (1) 基本方針のアップデート	<p>【都市計画の観点】駅周辺の「日常的な賑わい」と回遊性の向上。「人の流れと文化を生み出す美術館」の実現において、劇場併設は大きな起爆剤となります。展示会は一度見ると次の企画まで足が遠のきがちですが、上映のプログラムは切り替えが早く、市民が「日常的に何度も通う」動機を生み出すかと思えます。また夜間上映を実施することで、美術館周辺の夜の賑わい(ナイトタイムエコノミー)を創出し、駅前の飲食店などへの経済波及効果も期待できます。</p>

No.	該当箇所	意見の内容
4	P10 (1) 基本方針のアップデート	【コミュニティの観点】美術館への心理的ハードルを下げる入口として。「多世代の学びの場」「すべての人が利用しやすい環境」を整える上で、映画は最も大衆的で親しみやすい芸術の一つです。「敷居が高い」と感じる層や若い世代に対しても、足を運んでもらうきっかけができ、鑑賞後にそのまま展示室へ誘導する自然な流れも作れます。
5	P10 (1) 基本方針のアップデート	【建築・機能の観点】デジタルアーカイブ化と多目的利用の最大化。「現代の見すえ時代を育む美術館」の中で「デジタルアーカイブ化推進」が掲げられています。高精細な映像・音響設備を備えた劇場があれば、高画質化された貴重な所蔵品のデジタルアーカイブを大画面で市民に公開・解説する場として最適です。さらに、この空間は上映だけでなく、美術講座、シンポジウム、アーティストのトークショーなど、教育普及事業の拠点としても多目的にフル活用でき、増築に対する投資対効果を最大化できます。
6	P18 (1) 設備の全面改修	IPM を推進するためにジュータン床の全面撤去を進め、コンクリート床とする。 温湿度管理のデジタル複数表示で、学芸員、設備技術員が PC 上でコントロール可能にする。
7	P18 (2) 収蔵庫の増床	収蔵庫 1、2、3 の区分けを廃止して、一室化として収蔵棚の増床を図る。スライド式収納壁を半減させ、収納棚の増床を図る。(絵画作品は基本的に段ボール箱に入れて収納棚に保管する)
8	P18 (3) めざすべき姿の実現	総合案内—受付・もぎり—看視員配置の動線を見直して省人化を図る(デジタル化によりもぎりの廃止、遠隔監視などを実現)。DX の推進によるサービス向上。デジタルチケットシステムの導入によって、もぎりの廃止、半券と現金の集計作業の廃止、入場者数集計の廃止を図る。館内 Wi-Fi 化を進め、多言語音声ガイドの導入を図る。運営コストの低減につとめ持続可能な運営管理を進める。